

五

B-0613

0228

備前局

高初第三四九〇號

昭和六年四月十七日

昭和六年四月廿壹日接受

名込欄

愛媛縣知事 笹井幸一郎

内務大臣 安達謙藏殿
外務大臣 幣原喜重郎殿
海軍大臣 安保清種殿
各廳府縣長官 殿

國際聯盟軍縮本會議ニ関スル件

來春開カキ國際聯盟軍縮本會議對シ我國主張ヲ天下ニ闡明セムト陸軍中將筑紫能七名義以テ本月十三日管下今治市長宛左記印刷物郵送越シ

先ガ接受者ニ於テハ介意セム一瞥後放置セシ模様ニ有之

右及申(通報書也)

左記

謹啓 國際聯盟唯一の使命として被重討議候軍縮問題と愈々東春を期して總會の議に附せらるゝ事と相成候趣御同慶の至りに奉存候
本件に關し積年繰返されし軍縮準備委員會會議の内幕と華府及倫敦條約の經驗に鑑みり比率制度の軍縮條約は一二強大國の立場を有利ならしむるのみならず締約國の多くは寧ろ國防上の不安を増加し却て國際平和の破壊を招来する結果と相成候に就ては一二強大國の意圖を申しとす比率制限法を軍縮原則として東春の本會議に進申す

るが如きこと有之候事は假に條約其物は成立するとして
も國際平和は之が為却て脅威の度を増加し聯盟成立の意
義も益に没却さるる事と可相成興と存候日本とて果し
て國際平和の恒久的建設に貢獻する誠意ありとせば從來
の如き追隨的態度と断然放棄し皇國萬古の平和精神
を勇猛に發揮して聯盟本會議の中心と爲り在令中外を貫
して調停せざる天地の公道を公明正大に主張大に萬邦會心の下に
一大軍縮條約を締結すべく我朝野一致の奮進努力を求め度別
冊見の一端を具し仰祈聖慮考候に付御一讀被下度茲に傳
貴意より 敬具

昭和六年二月

筑紫 能七

別冊
表紙

「東春閣から入る」國際聯盟軍縮本會議に対する日本の主張

陸軍中將 筑紫 能七

- 内容
- 一 軍縮と國際平和の保障
 - 二 現代の國際心理
 - 三 軍縮と國民負担の軽減
 - 四 日本の主張
 - イ 軍縮協定の標準す（三原則）
 - ロ 國際標準法の實行
 - ハ 條約年限
 - ニ 日本軍備の考定

（全部説明省略）

（終）

(Japanese Section of the Women's International League for Peace and Freedom)

(Japanese Section of the Women's International League for Peace and Freedom)
 日本国際連帯婦人同盟

32. Shi-baka-maki, *Chasaka*
76-SANBANCHO, KOJIMACHIKU, TOKYO.

President, 1/1

EXECUTIVE COMMITTEE:

Honorary Secretary:

Honorary Treasurer:
DR. R. A. DODD

Mr. HIDE INUYE, *Inspector*
Japanese Women's Society

Also TANO JODAI
Japanese Women's University

Mrs. RIZO KADONO
30 Shinsakemachi, Akasaka-ku,

**76 San-Banchō, Kojimachi-ku,
Tokyo.**

Kalehikawa, Tokyo

Koishikawa, Tokyo.

1.0590.

10

Mrs. Tami Araki

Mrs. Misao Ichinomiya

Mrs. Koto Kuroda

Mrs. Yoehi Okamoto
Dr. Hironobashi

ALLING, 2000 21 2 23 0001
Mrs. Gilbert Bowles
Mrs. Tanna Campbell

Miss Tano Jodel
Miss Michi Kawai

Baroness L. McGlade
Mrs. Sachí Mitsu

Dr. Zuo Zhang
Mrs. Taka Suzuki
Mr. Yuzeno Ikenaka

Miss Marian Irwin

Mrs. Miyu Komuro

Mrs. Shila Nishikubura

ITALY, 2000-2001

为咎

孝
 悌
 忠
 信
 義
 廉
 恥
 節
 孝
 悌
 忠
 信
 義
 廉
 恥
 節

呈 拉 人 存 上 下、
至 今 股 份 丰 協 局 照 貴 論 文 萬 分

集
証
者
に
同
た
り
。 貴
金
を
授
け
下
れ。

目下、貴校の式品臨席。トするとの所、之を

をたすり
かろん
本協会の「大の字」附金

エ下より上へ。法に有親くはれ中へ上へ。

閣下の事函視する即ち石川春一に心を通ずる

吾子如牙口平健好。

為刊紙
論文
幕集
五
書
文
五
一
五
中

ア 讀 長 中 あり 基 礎 有 し

左は略、右書の内容をいふ。

[illegible]

因力當時幣原喜重郎陛下
何井道子

一 條約局

發高社第七五九號

昭和六年八月三日

鳥取縣知事 神田 純

昭和六年八月 八日 接受

名	綴



内務大臣 安達謙藏 殿
外務大臣 幣原喜重郎 殿
陸軍大臣 南 次郎 殿
海軍大臣 安保清種 殿
警視總監 高橋守雄 殿

軍備縮少問題ニ関スル小冊子郵送越了件

在東京内田信也名義ヲ以テ七月二十日鳥取縣隊

区司令部宛「明年の軍縮會議と條約草案に就て」ト題スル左記内容ノ小冊子一部ヲ郵送越シタルが接受者ニ於テハ何等ノ意嚮ヲ有セズ一瞥ノ後放任ニ居レリ
右及申(通)報候也

記

一 軍縮會議ノ経緯
二 聯盟軍縮會議と華府條約及倫敦條約との關係
三 軍縮條約草案

第一編 人員

第二編 器械の制限

第三編 支出予算の制限

第四編 報道の交換

第五編

化学兵器

第六編

一般規定

四軍縮本會議の準備と各國の態度

一軍縮本會議の準備

二軍縮本會議の準備

三軍縮本會議の準備

四軍縮本會議の準備

五軍縮本會議の準備

條約第二三〇〇號

加藤

昭和六年七月廿八日

昭和六年七月廿九日接受

6.7.9
18.7.91

代議士内田信也軍縮會議ニ
關スルパンフレット郵送ノ件

政友會代議士内田信也ハ一千九百三十五年開催セ
ラル軍縮會議ハ我國ニ不利ノ點アリ假令會議
ガ不成功ニ終ルモ尚次回ノ會議ニ影響スルヲ以テ
我國ノ言動ハ條約ノ成否ニ拘ラズ最モ重要性ヲ帶
ビ朝野慎重ニ考究スルノ必要アリトテ本月余行ノ
政友會機關紙「政友」ニ詳細ナル會議ノ経緯軍縮
條約草案其他ヲ掲載シタルハ計數正確ニレテ論
旨亦輿論ヲ喚起スルニ足ルモノナリトテ之ヲ拔萃シ「明

年ノ軍縮會議と條約草案に就テト題スル左記目
次ノ如キパンフレットヲ作成シテ主ナル貴衆兩院議員及
政治的反動團體ニ宛テ本月十六日郵送セリ

パンフレット目次

- 一 軍縮會議の経緯
- 二 聯盟軍縮會議と華府條約及バ倫敦條約との關係
- 三 軍縮條約草案
 - 第一編 人員
 - 第二編 器材の制限
 - 第三編 支出豫算の制限
 - 第四編 報道の交換
 - 第五編 化學兵器
 - 第六編 一般規定
- 四 軍縮本會議の準備と各國の態度

以上

終入
ラ
フ
ト

條約局
高秘第二三〇〇號

昭和六年七月廿九日發
昭和六年七月廿八日

代議士内田信也軍縮會議ニ
關スルパンフレット郵送ノ件
誓祝強盟

副

政友會代議士内田信也ハ一千九百三十五年開催セ
ラル、軍縮會議ハ我國ニ不利ノ點アリ假令會議
ガ不成功ニ終ルモ尚次回ノ會議ニ影響スルヲ以テ
我國ノ言動ハ條約ノ成否ニ拘ラズ最モ重要性ヲ帶
ビ朝野慎重ニ考究スルノ必要アリトテ本月余行ノ
政友會機關紙「政友」ニ詳細ナル會議ノ経緯軍縮
條約草案其他ヲ掲載シタルハ計數正確ニレテ論
旨亦輿論ヲ喚起スルニ足ルモノナリトテ之ヲ拔萃シ「明

年ノ軍縮會議と條約草案に就テト題スル左記目
次ノ如キパンフレットヲ作成レテ主ナル貴衆兩院議員及
政治的反動團體ニ完テ本月十六日郵送セリ

パンフレット目次

- 一 軍縮會議の経緯
- 二 聯盟軍縮會議と華府條約及バ倫敦條約との關係
- 三 軍縮條約草案
 - 第一編 人員
 - 第二編 器材の制限
 - 第三編 支出豫算の制限
 - 第四編 報道の交換
 - 第五編 化學兵器
 - 第六編 一般規定
- 四 軍縮本會議の準備と各國の態度

以上

高秋第二四八五號

昭和六年八月十一日

昭和六年八月拾貳日接受

流行軍縮論の危険性ト題スル 警報 小冊子配布ニ關スル件

副

討下渋谷町櫻ヶ丘一五番地法學博士嵯川新
ノ軍縮ニ關スル小冊子配布ニ就テハ屢々既報
ノ處ナルカ更ニ客月三十日付ヨリ以テ「流行軍縮
論ノ危険性」ト題シ左記目次ヲ有スル四六版一
四頁別添(内相警保局長陸相ノミ添付)ノ如キ
小冊子約千五百部ヲ作成貴衆兩院議員ノ一
部陸海軍將官並著名政治浪人等ニ対シ配布ス
ルト共ニ赤坂區青山南町六ノ一七満州問題解

決同盟ヨリ定價金五錢ニテ發賣中ナルヲ以テ引續
キ注意中ニ有之

記

目次

- 一、流行軍縮論は國民の生存を危ふす
- 二、軍縮國民同盟の趣意書の輕薄
- 三、清瀨代議士の「軍費論」の不明と危険性
- 四、政友會及民政黨の軍縮論の不備
- 五、來る軍縮會議と日本人の要求

手
三

高
和
第
二
四
八
五
號

昭和六年八月十一日

昭和六年八月十一日
6.8.11
接受

流行軍縮論の危険性ト題スル
小冊子配布ニ關スル件
望
祝
望

取
寄
書

討下渋谷町櫻ヶ丘一五番地法學博士蜷川新
ノ軍縮ニ關スル小冊子配布ニ就テハ屢々既報
ノ處ナルカ更ニ客月三十日付ヲ以テ流行軍縮
論ノ危険性ト題シ左記目次ヲ有スル四六版一
四頁別添(内相、警保局長、陸相ノミ添付)ノ如キ
小冊子約千五百部ヲ作成貴象函院議員ノ一
部陸海軍將官並著名政治浪人等ニ対シ配布ス
ルト共ニ赤坂區青山南町六ノ一七満州問題解
カ
ス
一

決同盟ヲ定價金五錢ニテ發賣中ナルヲ以テ引續
キ注意中ニ有之

記

目
次

- 一、流行軍縮論は國民の生存を危ふす
- 二、軍縮國民同盟の趣意書の輕薄
- 三、清瀨代議士の「軍費論」の不明と危険性
- 四、政友會及民政黨の軍縮論の不備
- 五、來る軍縮會議と日本人の要求

警約部長

高秋第二、三、三聯

名込綴
原初

和六年九月四日

坂下茂徳

昭和六年九月五日 接受

一普通要注意人森山五郎、田川代議士

ニ対スル暴行事件、件

深川區富川町三三木債宿上野屋止宿

普通要注意人 森山五郎

明治三十八年四月八日生

右者常ニ外交問題軍縮問題等ヲ捉ヒ急進的
言辞ヲ弄シ粗暴過激ノ行動ニ出ヅル虞アリ
注意中ノモノナル処各月八日以来所在不明ト
ナリ手配捜査中ナリシガ本日午前七時五十分
頃小石川區小日向台町二、一五軍宿國民会盟理

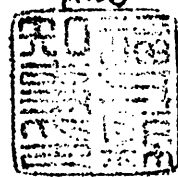
事代議士田川大吉郎ヲ訪問應接間ニ於テ同
代議士ト面會、際紙力難ニ詰メ携帯セル畫尿
ヲ振掛ケ暴行ニ及ビ一旦逃走シタルガ本日午
后三時頃深川扇橋警察署ニ自首シタルヲ以テ
引續キ詳細取調中ナリ

以上

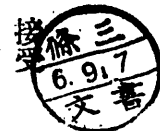
一、録約局
言秘第四四四號

昭和六年九月二日

福井縣知事 齋藤 亞橋



昭和六年九月七日



919

大
二
三

内務大臣 斎藤 毅
外務大臣 幣原 重信
陸軍大臣 南 次郎

靖江隊司令官 菅下 邦男
菅下 邦男、大隊事項を配布し、開示し、
官下帝國在郷軍人会 靖江隊に支給する
義兵司令官 高木 義人、下、時局に鑑

ミ国防ニ關スル 研究ヲ遂グルノ必要アリトシ
言明す、日 幹事会ヲ 開催シ、別席ノ如キ宣
言、決議ヲおシタルカ、更ニ之ヲ 一般民ニ知ラシ
メ、軍事思想普及、勇、正解ヲ求ムヘシ、勝
二、副トシ、客員二十九日、司令官 菅下 邦男、
二、配席、シタルカ、按ズルカ、別席ノ如キ宣
言、及 申報、シ、有、シ

宣言

平和ヲ愛好シ國際道義ヲ尊重スルハ我國古
來傳統ノ精神ニテ我民族ノ存続スル限ハ海
ルホナシ 此故ニ帝國ヲ防ノ目的ハ我獨立ヲ保
全ニ極東ニ在リ特殊ノ地位ヲ確保シ東洋ノ平
和ヲ維持シ列國ト共ニ正義正義ヲ擁護スルニ
此言ヲ俟タサルハニテ帝國現存ノ軍備ハ列國ノ
情勢特ニ四圍隣邦ノ状況ヲ既經現在ニ照シ
將來ニ亘リ調査スルニ於テ地方内情ノ事情ヲ考
慮セル必要ノ最小限ニ止ルニ過ギス 後ニ軍備
ヲ一時的事象ニ因リ隨時ニ左右スルカ如キ絶
對ニアリ得ハカウナルニテ然ラバ悔ミナキニ

此スニ至ルヘシ帝國將來ノ危機之レヨリ生ゼン
吾人我郷里ノ人ハ往ラニ軍備ノ偏重ヲ唱フルニ
非ズ軍備ノ減少カ真ニ吾國の興隆トテ相対
的實現ヲ見ルニ於テ進ンデ之ヲ提唱シ殊ニ財政
經濟ニ難ハル時機ニ直面シ我民負担ノ軽減ニ
貢獻セントスルノ趣望ハ決シテ人後ニ著ツキモニ
非ズ然レトモ吾國ノ空相 就中ト 东亚ノ情勢
ハ吾人ノ理想ト遠カルト甚シキモアルヲ遺憾トス
吾國ノ国防ヲ論スルモ動モスレバ如左内外ノ空
相ヲ正視セズ安クニ軍備ノ減少ヲ唱ク或ハ結果
不況ニ據ル心理ニ投シ軍備ノ削減ヲ証シ我民
ヲシテ其般趨ニ迷ハレルモノアリ 莫ニ愧歎ニ
ス 坪

惟テ茲ニ至リ吾人立郷軍人ハ益々軍人精神ノ
鍛錬ト軍事能力ノ増進トニ努メ必防ノ意
定ラ期スルト共其ノ施設ニ際スル研宄ヲ深
メ一致協力云ク此亦ノ注意ヲ喚起シ理解ヲ
求メ輿論ヲ中正ナラシムル所メ奮然躍起スヤキ
ノ秋ナリト信ス

決議

一吾人ハ中外ノ時局ヲ正觀シ必防ニ備スル自
覺ヲ強メ國民ノ理解輿論ノ是正ニ邁進セ
シト期ス
ヲ決議ス

昭和六年八月二十日

靖江縣隊正管下

立郷軍人有志一同

高松

第三〇七號



昭和六年十月六日

昭和六年拾月七日 接受

軍縮國民同盟ノ行動に關スル件

芝田

芝田翠平所ニ番地不ニ屋ビル内軍縮國民同盟ノ軍

縮叢書發行ニ関シテハ其都度既報ノ處ナルカ昨五日

台叢書第三編トシテ法學博士神川嘉松述「世界軍

縮會議ト我國ノ責任」ト題シ左記内容ヲ有スル四六版

三四頁、パンフレット約二ヶ部ヲ發行シ會費ヲ貢メ

著者貴家西院議員其他友誼団体等ニ對シ配布中

ニ有之

記

一第一回世界軍縮會議ト我國ノ責任

二陸軍大臣ニ對スル質問書

三軍縮國民同盟趣意書

四規約

以上

電話芝 4453



青森縣知事 青森縣外第 八四七 號

昭和六年十月九日

名込綴

青森縣知事 守屋磨瑛夫

昭和六年拾月拾日 接受



内務大臣

安達謙藏殿

外務大臣 幣原喜重郎殿

陸軍大臣 南次郎殿

海軍大臣 安保清種殿

各廳府縣長官殿

世界軍縮會議請願ニ関スル印刷物

郵送越ノ件

管下青森市大字柳町五番地所在基督教婦人矯風

會青森支部長寺井たか並弘前市大字若党町三十

四番地所在同支部長山鹿ヨシノ両支部長宛ニ本月

一日東京市赤坂区新坂町五ニ婦人平和協會東京

市麹町区丸の内ニ國際聯盟協會婦人部及東京市

外大久保百人町三六。所在日本基督教婦人矯風會

平和部ノ連名ヲ以テ明春二月ジュネーグニ開催セラルル世界

軍縮會議ニ於テ之カ目的達成ノ爲「世界軍縮會議

請願書理由書」ト題スル別紙寫ノ印刷物ヲ夫々郵

送越シタル処之カ接受者ニ於テハ未タ積極的ニ運動ヲ

開始セサルモ一般基督教信者婦人ニ對シ該請願書ニ署

名方勸誘セントスル意向ニ有之

右及中(通)報候也

別紙A

世界軍縮請願書

我等は全世界に於ける海、陸、空の軍備の徹底的縮少
を熱望し、一九三二年二月ジュネーヴ一般軍縮會議に於て
我日本帝國が世界各国と協力して目的の達成を期せ
る事を請願す。

昭和六年 月 日

住所

氏名又は
団体名

(団体の時は)

代表者名
會員数

(名) 宛) 内閣總理大臣若槻禮次郎殿
一般軍縮會議御中

注意

一、男女を問はず満十人以上の我國民は出来る大多數御署名下さい。
二、本紙片及びジュネーヴ一般軍縮會議に提出したまはる兩方の請願書に御署名下さい。
三、昭和六年十一月三十一日までに左記主催団体の何れかへ必ず御返送下さい。

東京市市役所財政課五二

婦人平和協會

東京市麹町区丸の内二二二

國際聯盟協會婦人部

東京市外大田區百八三六

日本婦人矯風會平和部
星督長

理由書

國際聯盟は明春二月ジュネーヴに一般軍縮會議を開き海軍陸軍空軍に亘る軍備全般の縮小制限について協議をすることになりし。此には國際聯盟加盟の五十四ヶ國の外に米露等の参加も豫想され空前の大軍縮會議たることと見られて居る。科學の進歩は戰術を一変した。毒瓦斯等の最新科學の應用により今後の戰爭に於ては戰地にある戰闘員は勿論老人婦人子供も非戰闘員が死傷の慘禍を蒙るは中すまいもなく數千年來の人類の文化も一朝にして破壊するの外はありませぬ。

過大な軍備の存在は戰爭の一大原因であり。過大な軍備は他國に脅威と與へ國際間の疑惑と不信の結果は猛烈な軍備競争となり終に戰爭を惹き起すに至ることは過去の歴史により明かであり。故に此際戰爭の誘因となさる軍備を徹底的に縮小して戰爭防止の途を圖るべきであると信じて居る。

國民の經濟的負擔を軽減するたため此際軍縮は漸行漸進な中に行われねばならぬ。昭和六年度豫算に表はれ我が海軍費は四億圓に近く歳出の二割八分強に當つて居る。

此を最少限度まで縮小し國民生活に密接な關係ある教育、社會的施設、生産的企業に充當することは一般國民の切實な要望であり。同時に昨今の深刻な經濟不況が彼の世界大戰及び其後の軍備競争に起因することと考へしより徹底的な軍縮により全世界も經濟的の重荷より解放すべしであり。

最後には第一次戰後結ばれた國際條約上の義務として、各國は進んで軍縮を実行すべきである。ヴェルサイユ平和條約締結の際各國は世界平和維持のためには最低限度までの軍縮の必要を認め、又強迫に對しては各國の軍備制限を條件として徹底的な軍縮を迫りし。既に強迫がこれを實行した今日、各國共に自國の軍縮に努力すべきは當然の義務であり。尚又國際紛争と平和的手段によつて解決することを約した不戰條約も價值あらむるために此際戰爭の手段たる軍備は縮小すべきであらうと信じて居る。

從來の軍縮會議に各國と代表して直接協議の任に當られるのは政治家及び軍事専門家であり。この會議の目的を達成せしめる背後の力となすものは一に賢明な輿論であります。ここに私共は全世界に在る平和を要望する婦人と協力提携し軍縮輿論喚起のたりに起す。

（貴團體でも）此際別紙に御署名下さつて輿論の一聲を代表下さい

婦人平和協會

東京市麹町区丸の内二丁目一

東京市麹町区丸の内二丁目一

國際聯盟協會婦人部

東京市外大久保

婦人矯風會平和部

日本星加坡婦人矯風會平和部

高秋第^{條約}四九九號

昭和六年十月十五日

埼玉縣知事山中恒三

昭和六年拾月拾九日接受



内閣總理大臣若槻禮次郎殿
内務大臣安達謙藏殿
外務大臣幣原喜重郎殿
各廳府縣長官殿

軍縮會議ニ伴フ請願
運動ニ關スル件

東京市赤坂區新坂町五二

婦人平和協會

東京市麹町區丸の内二ノ一二

國際聯盟協會婦人部

東京市外大久保百人町三六〇

婦人矯風會平和部

右三團體名義ヲ以テ管下北足立

郡浦和所基督教布教師関抵

ニ宛別記、如キ軍縮會議ニ關ス

ル請願書及理由書各二千部ヲ

郵送越シタリ

仍テ接受者、意嚮内偵スルニ該

理由書ノ趣旨ニ共鳴シ目下該請

願書ニ賛成者、署名取纏中

ニシテ不日提出ハ模様ニ有之

右及申(通)報候也

EC

(別記)

世界軍縮請願書

我等ハ全世界ニ於ケル海陸空ノ軍備ノ徹底的縮少ヲ熱望シ一九三二年二月ジュネーヴ一般軍縮會議ニ於テ我日本帝國カ世界各國ト協力シテ目的ノ達成ヲ期セン事ヲ請願ス

昭和六年 月 日

住所

氏名又ハ
団体名

(団体ノ時ハ代表者名)

會員數

内閣總理大臣若槻禮次郎殿

世界軍縮請願書

我等ハ全世界ニ於ケル海陸空ノ軍備ノ徹底的縮少ヲ熱望シ一九三二年二月ジュネーヴ一般軍縮會議ニ於テ我日本帝國カ世界各國ト協力シテ目的ノ達成ヲ期セン事ヲ請願ス

昭和六年 月 日

住所

氏名又ハ
団体名

(団体ノ時ハ代表者名)

會員數

一般軍縮會議御中

注意

一男女ヲ問ハス満十八キ以上ノ我國民ハ出来ル
丈多数御署名下サイ

ニ我政府及ジュネーブ集縮會議ニ提出イタシ
マスカラ両方ノ請願書ニ御書キ下サイ

三昭和六年十二月三十一日マデニ左記主催団
体ハ何レカヘ必ス御返送下サイ

東京市赤坂區新坂町五ニ婦人平和協會

東京市麹町區丸ノ内二ノ二國際聯盟協會

東京市外大久保百人町三六ニ日本基督教婦人矯風會平和部

修約局
新高報第五〇五號

昭和六年十月二十三日

富山縣知事 鈴木 敬

昭和六年十月廿八日 櫻



取米局



内閣総理大臣 樺山資紀
内務大臣 高橋是清
外務大臣 幣原喜重郎
陸軍大臣 南次郎
海軍大臣 安部素種
各廳局長 殿

キリスト教會ノ軍縮運動ニ因スル件

赤十字市 麹町区丸の内三ノ二

國際聯盟協會婦人部

合市 赤坂区新坂町五二

婦人平和協會

合市 外大久保町百人町三六〇

日本基督教婦人矯風會平和部

右ノ一 本月十六日 菅下 富山市 日本メソヂス

ト教富山教會内 基督教婦人矯風會 富山支部

長 石崎一恵ニ宛 明年二月、シエネーヴニ於テ

開催セラルル世界軍縮會議ノ目的達成ニ付スル別

紙請願書用紙並請願ノ理由書ヲ郵送越

シタルカ受信者ニ於テ本月十九日ノ例会ニ於

テ之ヲ所策ヲ協議スル趣ニ有之

右又中(通)報矣也

世界軍縮諸願書

我邦ハ今世界ニ於ケル海陸空ノ軍備ノ徹底
的縮少ヲ熱望シ一九三二年二月ロエネーヴ
般軍縮會議ニ於テ我日本帝國ヲ世界各
國ニ協力シテ目的達成ヲ期セシム事ヲ諸
願ス

昭和六年 月 日

住所

氏名又ハ

団体名

(団体代表者名)

合員数

内閣総理大臣若柳禮次郎殿

一般軍縮會議 御中

注意

一 男女ヲ問ハス満十八歳以上我國民ハ出ル大多數師

署名トサシ

一 我政府及シエネーヴ軍縮會議ニ提出イタル案ヲ兩

方ノ諸願書ニ併書トサシ

三 昭和六年一月三十日マデニ左記主催団体何レカヘ答

復返送トサシ

東京市赤坂区新坂町五二

婦人平和協会

東京市麹町区丸の内二一

国際聯盟協會婦人部

東京市外大塚町百八町三八

日本聖務教
婦人矯正會平和部

理由書

国際聯盟ハ明治二十二年二月にニールヴニ一般軍縮會議ヲ開キ
海軍陸軍空軍ニ互ル軍備令般ノ縮少ニツイテ協議ヲ
スルコトニナリマシタコシハ国際聯盟加盟ノ五十四ヶ國ノ
外ニ米露土中ノ六ヶ國ヲ加テ總計シ空前ノ大軍縮會議
ヲラントシテ了リマス

科学ノ進歩ハ戰術ヲ一変イタルヲ要ス馬斯等ノ最
新科学ノ應用ニヨリ今後ノ戰爭ニ於テハ戰場地
ニアル戰闘員ハ勿論老人婦人子供ノ非戰闘員ハ
マテカ死傷ノ慘禍ヲ蒙ルハ中スマデモナリ數千年未
ノ人類ノ文化モ一朝ニテ破壊スルノ外ハアリマセン
強大ノ軍備ノ存在ハ戰爭ノ一大原因デアリマス
過大ノ軍備ハ他國ニ脅威ヲ與ヘ國際内ノ疑忌ト

不信ノ結果ハ猛烈ナ軍備競争トナリ終ニ戰爭
ヲ惹キ起スニ至ル事ハ過去ノ歴史ニ依テ明カデア
リマス故ニ此際戰爭ノ誘因トナルヘキ軍備ヲ
徹底的ニ縮少シテ戰爭防止ノ道ヲ圖ルヘキデア
ルト信シマス

國民ノ経済的負担ヲ軽減スル為メニ此際軍
縮ハ斷行サレハナリマセン

昭和六年度予算ニ表ハレタ我陸海軍費ハ四億円
ニ近ク歳出ノ二割ハ分弱ニ當リテ居リマス

コレヲ最少限度迄縮少シ國民生活ニ直接ノ關係
ル教育社会的施設生産的企業ニ充當スル事
ハ一般國民ノ切實ヲ要望デアリマス

同時ニ昨今ノ深刻ナ經濟不況ヲ彼ノ世界ノ大戦及ビ

其後ノ軍備競争ニ起因スル事ヲ考ヘマシテ徹底的
ナ軍縮ニヨリハ全世界ヲ経済的ノ幸福ヨリ解放スヘキ
デアリマス

最後ニ世界大戦後結ハレタ国際条約上ノ義務トシテ各
国公進ニテ軍縮ヲ実行スヘキデアリマス、ウエルサイユ
平和条約ノ際ニ因ハ世界ノ平和維持ノ為メハ最低限
度マデノ軍縮ノ必要ヲボソ又独逸ニ対シテハ各国ノ軍
備制限ヲ条件トシテ徹底的ノ軍縮ヲ迫リマシタ
ニ独逸力之ヲ実行シタ今日各国共ニ自国ノ軍縮ニ
努力スヘキハ当然ノ義務デアリマス尚又国際紛
争ヲ平和的手段ニヨリ解決スル事ヲ約シタ不戦条
約ノ價值ヲシムル為ニモ此ノ際戦争ノ手段タル軍
備ハ減少サルベキデアルト信シマス

来ルヘキ軍縮會議ニ各国ヲ代表シテ直接協議ノ任
ニ當ラルノ人政治家及ヒ軍事専門家デアリマス
カ此會議ノ目的ヲ達成セシムル背後ノ力トナルモノハ
ニ賢明ノ輿論デアリマス、コニ私共ハ全世界ニテ
平和ヲ要望スル婦人ト協力提攜シ軍縮輿論喚
起シタメニ起テマシタ

ドウカノナタス(貴国併テス)此際別紙ニ連署者
下サツタ輿論ノ一瞥ヲ得表示下サ

東京市麹町区丸の内ニ一

国際聯盟協会婦人部

東京市赤坂区新坂町五二

婦人部平和会

東京市外区保町五八

日本基督教婦人矯風会平和部

昭和六年十月二十八日
外務省第二八七九號



昭和六年十月二十八日

名込

昭和六年十月廿九日接受



警視總監 高橋守雄

内務大臣 安達謙藏殿
外務大臣 幣原喜重郎殿
各廳府縣長官殿

在野軍縮請願書署名運動ニ関スル件

府下大久保百人町三六番地
日本基督教婦人矯風會 平和部

平和部長 ガントレット恒子

一 趣所區丸の内二ノ一番地
國際聯盟協會婦人部
代表者 本野久子

一 赤坂區新坂町五二番地
婦人平和協會

委員長 河井道子

右者明年二月「ジュネーヴ」ニ於テ開催予定ノ在野軍縮會議ニ対スル請願書署名運動ニ関シテ豫テ協議中、処今面肩書連名ニテ別記、如キ在野軍縮請願書及理由書約十五萬部（内訳矯風會五万部國際聯盟協會婦人部七万部平和協會三萬部担当ニテ）印

例ニ附シ本年十二月三十一日ヲ締切期日トシテ滿十八才以
上ノ日本人男女ニ對シ全國的ニ署名ヲ求ムルハク各支部ニ旨
部内至下部郵送セリ
右及申(通)報候

理由書

国際聯盟は明春二月ジュネーヴに一般軍縮會議を開き、海軍、陸軍、空軍に亘る軍備全般の縮少、制限について協議をすることになりました。これには国際聯盟加盟の五十四ヶ國の外に、米、露等の参加も豫想され、空前の大軍縮會議たらんとして居ります。

▼科學の進歩は戰術を一變いたしました。毒瓦斯等の最新科學の應用により、今後の戰爭に於ては、戦地にある戰闘員は勿論、老人婦人子供の非戰闘員までが死傷の慘禍を蒙るは申すまでもなく、數千年來の人類の文化も一朝にして破壊するの外はありません。

▼強大な軍備の存在は戰爭の一大原因であります。過大の軍備は他國に脅威を與へ、國際間の疑惑と不信の結果は猛烈な軍備競争となり、終に戰爭を惹き起すに至ることは過去の歴史によつて明かであります。故に此際戰爭の誘因となるべき軍備を徹底的に縮少して戰爭防止の途を開るべきであると思ひます。

▼國民の經濟的負擔を軽減するためにも此際軍縮は斷行されねばなりません。昭和六年度豫算に表れた我陸海軍費は四億圓に近く、歳出の二割八分弱に當つて居ります。これを最少限度まで縮少し、國民生活に密接な關係ある教育、社會的諸施設、生産的企業に充當することは一般國民の切實な要望であります。同時に昨今の深刻な經濟不況が彼の世界大戰及び其後の軍備競争に起因することを考へましても、徹底的な軍縮により全世界を經濟的の重荷より解放すべきであります。

▼最後に世界大戰後結ばれた國際條約上の義務としても、各國は進んで軍縮を實行すべきであります。ヴェルサイユ平和條約締結の際各國は、世界平和維持のためには最低限度までの軍縮の必要を認め、又獨逸に對しては各國の軍備制限を條件として徹底的の軍縮を迫りました。既に獨逸がこれを實行した今日、各國共に自國の軍縮に努力すべきは當然の義務であります。尙又國際紛争を平和的手段によつて解決することを約した不戰條約を價值あらしむるためにも、此際戰爭の手段たる軍備は縮少さるべきであると思ひます。

▼來るべき軍縮會議に各國を代表して直接協議の任に當られるのは政治家及び軍事専門家でありますが、この會議の目的を達成せしめる背後の力となるものは一に賢明な輿論であります。こゝに私共は全世界に在る平和を要望する婦人と協力提携し、軍縮輿論喚起のために起ちました。

どうかあなたも(貴團體でも)此際別紙に御署名下さつて輿論の一聲を御表示下さい

東京市赤坂區新坂町五二

婦人平和協會

東京市麹町區丸の内二の一

國際聯盟協會婦人部

東京市外大久保百人町三六〇

日本基督教婦人矯風會平和部

世界軍縮請願書

我等は全世界に於ける海、陸、空の軍備の徹底的縮少を熱望し、一九三二年二月ジュネーヴ一般軍縮會議に於て我日本帝國が世界各國と協力して目的の達成を期せん事を請願す。

昭和六年 月 日

住所

氏名又は團體名

(團體の時)
代表者名

會員數

内閣總理大臣若槻禮次郎殿

世界軍縮請願書

我等は全世界に於ける海、陸、空の軍備の徹底的縮少を熱望し、一九三二年二月ジュネーヴ一般軍縮會議に於て我日本帝國が世界各國と協力して目的の達成を期せん事を請願す。

昭和六年 月 日

住所

氏名又は團體名

(團體の時)
代表者名

會員數

一般軍縮會議御中

注意

- 一、男女を問はず満十八才以上の我國民は出来る大多數署名下さい。
- 二、我政府及ジュネーヴ軍縮會議に提出いたしますから兩方の請願書に御書き下さい。
- 三、昭和六年十二月卅一日までに左記主催團體の何れかへ必ず御返送下さい。

- 東京市赤坂區新坂町五二 婦人平和協會
- 東京市麹町區丸の内二二 國際聯盟協會婦人部
- 東京市外大久保百人町三六〇 日本基督教婦人矯風會平和部

修約局
外務省第一八號

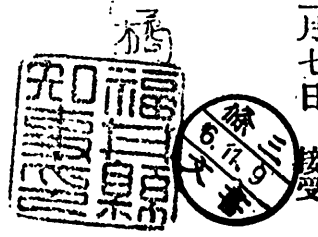
昭和六年十一月四日

福井縣知事

齋藤直

名込綴

昭和六年七月七日 接受



歐米局

内務大臣 安達謙藏殿
外務大臣 幣原喜重郎殿
陸軍大臣 南次郎殿
海軍大臣 安保清輝殿
警視總監 石川高山殿
各縣知事殿

基督教會軍縮運動三角ノ件
東京市麹町区乙丸、山二ノ一

國際聯盟協會婦人部

同市赤坂区新坂町五二

婦人軍縮協會

同市外大久保町百人町三六〇

日本基督教婦人矯正會本部

右ヨリ、客月十六日、管下福井市二所在、日本基督教婦人矯正會福井支部長山田壽雄宛明年二月、瑞西府ニ於テ開催、并テ軍縮會議ノ目的達成ニ對スル請願書用紙（十月二十二日付特高第百三三號）ヲ寄附通致月、並テ請願ノ理由書ヲ郵送越シタルニ付、受信者ニ於テハ即日、縣下各會員ニ配布シ、調印取纏付テ、右及申（通）報候也。

秘約局

秘高第一八六二號

昭和六年十一月四日

群馬縣知事平

田紀一



昭和六年十一月七日 接受

名込額

内閣總理大臣 若槻禮次郎殿
内務大臣 安達謙藏殿
外務大臣 幣原喜重郎殿
陸軍大臣 南次郎殿
海軍大臣 安保清種殿
警視總監 並各廳府縣長官殿

軍備縮少請願運動ニ關スル件

日本基督教婦人矯風會平和部
國際聯盟協會婦人部

石名義ヲ以テ客月二十八日管下吾妻郡高山
村基督教信者有馬時三宛別紙寫ノ如キ請
願書ニ調印取纏メ方依頼越アリ接受者ニ於
テハ目下信者ノ調印取纏メ中ニ有之候条此
段及申(通)報候也

理由書

國際聯盟は明春二月ジュネーヴに一般軍縮會議を同き海軍陸軍空軍に亘る軍備全般の縮小制限に付て協議をすことになりました。これには國際聯盟加盟の五十四ヶ國の外に米露等の参加も豫想され空前の大軍縮會議たらむとして居ります。

○科学の進歩は戰術を一変致しました。毒瓦斯等の最新科学の應用により今後の戦争に於ては戦地に在る戦闘員は勿論老人婦人子供供の非戦闘員までもが死傷の慘禍を蒙るは申しまでも無く数千年來の人類の文化も一朝に

して破壊するの外はありません

○強大な軍備の存在は戦争の一大原因であります。過大の軍備は他國に脅威を與へ國際間の疑念と不信の結果は猛烈な軍備競争となり終には戦争を惹き起すに至りことは過去の歴史によつて明かてあります。故に此際戦争の誘因となつべき軍備を徹底的に縮小して戦争防止の途を圖へべきであると思ひます。

○國民の経済的負擔を軽減するためにも此際軍縮は断行されるはなりません。昭和六年度予算に表はれた我陸海軍費は四億円に近く歳出の二割八分弱にあつて居ります。これを最少

限度まで縮少し國民生活に密接な關係ある
教育社會的諸施設生産的企業に充当する
ことは一般國民の切實な要望であります
同時に昨今の深刻な經濟不況が彼の世界大戰
及其後の軍備競争に起因することとを考へまし
ても徹底的な軍縮に依り全世界を經濟的重荷
より解放すべきであります

最後に世界大戰後結ばれた國際條約上の義
務として各國は進んで軍縮を實行すべ
きであります。ヴェルサイユ平和條約締結の際各
國は世界平和維持のためには最底限度までの
軍縮の必要を認め又獨逸に対しては各國の

軍備制限を條件として徹底的の軍縮を迫
りました。既に獨逸がこれを實行した今日各
國共に自國の軍縮に努力すべきは當然の義
務であります。尚又國際紛争を平和手段に
よつて解決することとを約した不戰條約を價
値あるしむるためにも此の際戦争の手段たる
軍備は縮小さるべきであると信じます

○来し一き軍縮會議に各國を代表して直接協
議の任に當られるのは政治家及軍事専門家
でありますかこの會議の目的を達成せしむる
背後の力となるものは一に賢明な輿論であ
ります。ここに私共は全世界に在る平和を要

望する婦人と協力提携し軍縮輿論喚起のため
に起すました、どうかあなたも一貴団体でも
此際別紙に御署名下さつて輿論の一聲を
御表示下さい。

東京市赤坂区新坂町五二 婦人平和協會
東京市麹町区丸の内二ノ二 國際聯盟協會婦人部
東京市外大久保町三八 基督教婦人矯風會平和部

世界軍縮諸願書
我等は全世界に於ける海陸空の軍備の徹底的
縮小を熱望し一九三二年二月ジュネーヴ一般軍縮會
議に於て我日本帝國が世界各国と協力して
目的の達成を期せん事を諸願す
昭和六年 月 日

住所
氏名又ハ
団体名
(団体の時は)
代表者名
會員数

内閣總理大臣若槻禮次郎殿

切取線

世界軍縮諸願書
我等は全世界に於ける海陸空の軍備の徹底的
縮小を熱望し一九三二年二月ジュネーヴ一般軍縮
會議に於て我日本帝國が世界各国と協力して
目的の達成を期せん事を諸願す
昭和六年 月 日

住所
氏名又ハ
団体名
(団体の時は)
代表者名
會員数

一般軍縮會議御中

切取線

注意

一、男女を問はず満十八才以上の我國民は出来るだけ多数御署名下さい

二、我政府及ジュネーヴ軍縮會議に提出致しますから両方の請願書に御書き下さい

三、昭和六年十二月三十一日迄に左記主催團體の何れかへ必ず御返送下さい

東京市赤坂区新坂町五二婦人平和協會

東京市麹町区丸の内二二國際聯盟協會婦人部

東京市外大久保町三八日本基督教婦人矯風會平和部

條約局
和六年十一月六日

山梨縣知事 福田虎龜

名簿

昭和六年十二月拾日 接

内閣總理大臣若槻禮次郎殿
外務大臣安達謙藏殿
警視總監高橋守雄殿

軍艦會議ニ件、請願運動ニ
関スル件

東京市赤坂區新坂町五二
婦人平和協會

東京市麹町區丸の内二二
國際聯盟協會婦人部

東京市外大久保百人町二六

右名義ヲ以テ各月上旬管下中巨摩郡
川村曰水基督教婦人矯風會甲府支部長
島田為野宛明年一月二日ニ於テ
閣下大正實官及軍縮會議達成ノ
總理大臣實官及軍縮會議達成ノ
議提スヘキ陳情書ニ調印取纏方
頼越ノ事實アリ接受者ニ於テハ
件發生以來國一致國難ニ當ラハ
ル際ナルヲ以テ如何ニ平和ヲ愛
ナリトシテ軍備縮小ヲ唱導スヘキ
非ハトシテ軍事事件ハ解決後ニ於テ

取録
右及申通
報
候也
意
有之

新報 昭和六年十一月六日

昭和六年十二月拾日 接受

山梨縣知事 福田 虎 龜

内閣總理大臣 若槻 禮次郎 殿
外務大臣 安達 謙藏 殿
警視總監 高橋 守雄 殿

軍艦會議ニ伴、諸願運動ニ
際スル件

東京市赤坂區新坂町五二
婦人平和協會

東京市麹町區丸の内二

國際聯盟協會婦人部

東京市外大久保百人町二六

日本基督教婦人矯風會婦人部

右名義ヲ以テ客月月上旬管下中巨摩郡
川村曰本基督教婦人矯風會甲府支部長
島田為野宛明年一月二日ニ於テ
前曜セラル軍艦會議ニ成、
總理大臣貴官及シテ陳情書ニ
議提スヘキ陳情書ニ於テ取纏方依
類越ノ事實アリ接受者ニ於テハ滿蒙事
件發生以來、國一致困難ニ當ラハ愛好者
レ際ナルヲ以テ如何ニ平和ヲ愛好者
トスルモ、軍艦會議ニ如何ニ唱導スヘキ
非トスルモ、同事件解決後ニ於テ調印

取及申通候也
意郷有之

0268

B-0613

高杉三九三九號

昭和六年十一月六日

大分縣知事阿部嘉七

昭和六年十二月拾日 接受

綴込名



内務大臣安達謙藏殿
外務大臣幣原喜重郎殿
陸軍大臣南次郎殿
海軍大臣安保清種殿
各廳府縣長官 殿

軍備縮小運動ニ關スル件

キリスト教婦人矯風會

平和部長 ガンドレット恒子

右ハ最近ニ因リキリスト教婦人矯風會大分支部長
荒木ユキニ對シ滿蒙問題ニ對スル武力解決ヲ遺憾ト
シ之カ原因ハ各國軍備擴張充競争ニアル旨ヲ説明シ全
世界平和ノため軍備縮小ハ必要ナル所以ヲ力説シ之レカ目的ナリ

達成スル為メキリスト教婦人矯風會ガ主体トナリ軍備
縮小運動ヲ作成シ縣民多數ヲ調印ヲ取纏メ至急本部
ニ回送方懇通シ文書ヲ郵送シ来リタリ

之ニ對シ矯風會本部支那部、意圖ハ軍縮ソレ自体
ニ賛成モ現在ニ於テ日支問題ハ帝國ノ浮沈ニ関
スル重大事件ナリ然レ之ヲ將來ニ於テ軍縮問題ト關
聯シ云為スルハ如キハ世界平和ノ名ノ下ニ帝國ノ滿州ニ
於ケル立場ヲ犧牲ニ供スルガ如キ結果ヲ招来スルノミナラズ
國民誤解ヲ招ク虞アルヲ此際之レカ運動ニ着手スルハ
當ヲ得タモニアラサルヲ以テ運動セサルフトニ申合ハシタリ

右及申(通)報候也

條約局

最高秘第一一四號

昭和六年十一月十日

鳥取縣知事 神田 純

名込綴

昭和六年十二月拾貳日接受

條三
6.1.13
文書

内閣總理大臣 若槻禮次郎 殿
外務大臣 安達謙藏 殿
陸軍大臣 幣原喜重郎 殿
海軍大臣 安部清純 殿

軍備縮少ニ関シ請願運動ノ件

キリスト教婦人平和協會
國際聯盟協會婦人部
日下キリスト教婦人會平和部

右名義ヲ以テ客月末頃鳥取市鳥取縣キリスト教婦人婦
凡會長伊橋コウニ宛本月六日付高紳第三九三九號大
分縣通報全様ノ標記請願ニ関シ該願書並ニ理田書
各百部ヲ添付請願方勸誘越ニタルガ接受者ニ於テ
ハ其ノ趣旨ニ賛成シ各會員ヨリ調印取纏中ニシテ本月
末日迄ニ本部ニ宛郵送シ今本部ヲ經テ内閣總理大
臣(貴官)及軍縮會議ニ提出スル趣ニ有之
右及申報候也

吾界軍縮請願書

我等ハ世界ニ於ケル海陸空ノ軍備ノ縮少ヲ熱望シ一九三二年
二月ジネーウ一般軍縮會議ニ於テ我日本帝國カ世界各國
ト協力シテ目的ノ達成ヲ期セン事ヲ請願ス

年 月 日

氏 名

總理大臣 宛
軍縮會議 宛

條約局
高松第三六五番

昭和六年十二月十七日

山形縣知事山口安憲

名込綴

昭和六年十二月十九日接受

條三
6.11.20
文書

内務大臣安達謙藏殿
外務大臣幣原喜重郎殿
文部大臣田中隆三殿
各廳府縣長官殿

古里軍縮請願運動ニ関スル件

本籍宮城縣遠田郡小牛田町南小牛田字町屋敷九三
住所山形縣北村山郡楢岡町大字楢岡三五九三

基督教牧師

今野順治

當二十九年

右有封ニ客月二十七日頃東京市外大久保町百人町三ノ口日本基
督教婦人矯風會平和部外ニ團體名義ヲ以テ別紙ノ
如キ印刷物郵送アリヌヲ以テ同人ハ客月三十日來會者二十
名ニ對シ該理由書ヲ説明シ賛成ヲ求メ請願書ニ各人ノ
署名ヲ得、日本基督教婦人矯風會平和部發送セル
狀況ニ有之
右及甲(通)報候也

理 田 書

同盟は明春二月ジュネーヴに一般軍縮會議を開き、海軍、陸軍、空軍に亘る軍備全般の縮小制限について協議をすることになりました。これには国際聯盟加盟の五十四ヶ國の外に米、露等も参加を豫想され、空前の大軍縮會議たらんとして居ります。

科學の進歩は戰術を一変いたしました。毒瓦斯等の最新科學の應用により、今後の戰爭に於ては戰地にある戰闘員は勿論老人婦人子供も非戰闘員までが死傷の慘禍を蒙るは申すまでもなく、数千年來の人類の文化も一朝にして破壊するの外はありません。

強大なる軍備の存在は戰爭の一大原因であります。過大の軍備は他國に脅威を與へ、國際間の疑惑^不と信の結果は猛烈な軍縮競争終に戰爭を惹き起すに至るとは過去の歴史によつて明かであり、故に此際戰爭の誘因となるべき軍備を徹底的に縮小して戰爭防止の

途を圖るべきであると信じます。

國民の経済的負擔を軽減するためにも、此際軍縮は断行されねばなりません。昭和六年度豫算に表れた我陸海軍費は四億四千萬に近く歳出の二割八分弱に當つて居ります。これを最大限度まで縮小し、國民生活に密接な關係ある教育、社會的施設、生産的企業に充當することは一般國民の切實な要望であります。同時に昨今の深刻な經濟不況が彼等若輩大戦及び其後の軍備競争に起因することを考へ、あつても徹底的な軍縮により、全若輩を經濟的負擔より解放すべきであります。

最後に若輩大戦後結ばれた國際條約上の義務としても各國は進んで軍縮を實行すべきであります。ヴェルサイユ平和條約締結の際各國は若輩平和維持のためには最低限度までの軍縮を必要を認め、又他國に対しては各國の軍備制限を條件として徹底的な軍縮を迫り

ました、既に獨逸がこれを實行した今日、各國共に自國の軍縮に努力
すべきは當然であります。尚又國際紛争を平和的手段によつて解
決することを約した不戰條約を價值あらしむるためにも、英露戰
争の手段たる軍備は縮小さるべきであると信します。

来るべき軍縮會議に各國を代表して直接協議の任に當られるのは
政治家及軍事専門家でありすが、この會議の目的を達成せしめ
る背後の力となるものは一に賢明な輿論であります。こゝに私共は全
世界に在る平和を要望する婦人と協力提携し、軍縮輿論喚起
のために起ちました。

どうかあなたも(貴團體でも)此際別紙に御署名下さつて輿論の
一聲を御表示下さい。

東京市赤坂區新坂町五二

婦人平和協會

東京市麹町區丸の内二の一

國際聯盟協會婦人部

東京市外大久保百人町三六〇

日本婦人矯風會平和部
基督教婦人矯風會平和部

世界軍縮請願書

我等は全世界に於ける海陸空の軍備の徹底の縮少を熱望し、一九三二年二月ジュネーヴ一般軍縮會議に於て我日本帝國が世界各國と協力して目的の達成を期せん事を請願す。

昭和六年 月 日

住所

氏名又は

団体名又は

(団体の時は)

代表者

會員數

内閣總理大臣若槻禮次郎殿

世界軍縮請願書

我等は全世界に於ける海陸空の軍備の徹底の縮少を熱望し

一九三二年二月ジュネーヴ一般軍縮會議に於て我日本帝國が世界各國と協力して目的の達成を期せん事を請願す。

昭和六年 月 日

住所

氏名又は

団体名又は

(団体の時は)

代表者

會員數

一般軍縮會議御中

注意

一、男女を問はず満十八才以上の我國民は出来る大多數御署名下さい。

二、我政府及ジュネーヴ軍縮會議に提出いたしますから両方の請願書に御書き下さい

三、昭和六年十二月廿一日までに左記主催団体の何れかに必ず御返送下さい

東京市赤坂區新坂町五二
東京市麹町區丸の内二〇一
東京市外大久保百人町三六

婦人平和協會
國際聯盟協同會婦人部
日本基督教婦人矯風會平和部

條約局
特高秘第ニ〇四一八號

昭和六年十一月十七日

名込綴

昭和六年十二月拾九日接受



平田紀一

内務大臣安達謙藏殿
外務大臣幣原喜重郎殿
警視總監高橋守雄殿
高崎憲兵分隊長殿

世界軍縮法起草署名運動ニ関スル件

案月三本日附外秘第ニ八七九號ヲ以テ警視(貴)
府通根ニ係ル標記ノ件ニ関シ注意申シ然ル
下高橋、高崎、桐生、伊勢崎、前田、原田、高田

渡川、安中、太田、境、各基督教會及婦人矯風會
欠元不列為(古)軍縮法起草及理由書(部)
送事實有之、高崎、前田、原田、高田ニ於テ
目下金欠アリテ署名勸誘中ニシテ他ハ勸誘
也、此ニ根據ナシテ又目下、然署名者少ク又初
濟中、以テ勸テモ不穩、言勸力キモ引續キ
注意申シ、有之候系此段又申(通)根候也

通

3通

郵政局

高松第三四八五號

名込綴

昭和六年十月十八日

三ノ宮

辛未同志會、勸辭ニ関スル件

登記係監

歐米局

郵政局

芝区水交社内辛未同志會總會開催ノ件ニ関シ
テハ本月十七日付高松第三四八五號ヲ以テ既
報ノ處ナルガ今會ハ客年倫敦海軍之縮
條約問題當時輿論喚起、爲奔走セシ海
軍之縮約問題聯盟（恢弘會外五團體）ヲ中心ト
シ去月二十八日秋家裡ニ水交社ニ會合、種々
協議、結果國防其他ニ関シ善処スル目的ニ
テ陸軍、海軍、政治外交ノ四部門ニ分チ夫
々専門家ヲ是ニ配シ各々研究、上適當ナ

ル運動ヲ開始スルコトニ決定、本會ヲ組織
セラレタルモノナルガ會員ハ退役陸海軍將
官及一部貴族院議員等、多數ニ亘リ目下
別記名簿、通り百二十二名ヲ算シ役員ハ
未タ決定セサル趣ナルモ臨時ニ有馬大
將、筑紫中將、本多熊太郎等首トシテ
是ニ當リツ、アル模標ニ有之其、經過引
續キ注意中

以上

辛未同志會名簿

公

一條

実孝

子

花房太郎

北條大洋

男

井上

清純

花井卓藏

徳富猪一郎

井上

雅二

阪西利八郎

板内曾次郎

井上

一次

半澤玉城

富谷鑑太郎

伴江

朝助

西伸太郎

千坂智次郎

伴丹

松雄

西原亀三

小栗孝三郎

石橋

甫

蟻川新

子 小笠原長生

石老

真臣

○幸多熊太郎

後 大隈信常

岩崎

清七

○堀口九萬一

男 大井成元

飯田

久恒

堀内三郎

大島健一

梅本

圭三郎

堀内龍明

○大山卯次郎

男

大寺

純藏

上山満之進

柵所五十吉

大川

周明

神崎一作

羽島ハ十六

大倉

邦彦

横田秀雄

筑紫能七

大谷

幸四郎

吉田清風

辻村楠造

奥平

俊藏

吉村萬治

鶴見左吉雄

和田

彦次郎

田中都吉

長岡隆一郎

和田

賢助

子 主花種志

中島資明

加茂

正雄

竹内重利

中川正左

寛

正太郎

多賀宗之

中里重次

亀岡

豊二

谷田繁太郎

男 鍋島直明

鹿子

木員信

子 高倉永則

南郷次郎

河西

惟一

高田豊樹

并田亀太郎

村川堅固
 向田金一
 内田嘉吉
 内田定雄
 内田重成
 内田虎三郎
 宇野哲人
 宇佐山知義
 野中勝明
 山田英太郎
 山田耕三
 山口十八
 山路一善
 山下三郎
 矢野恒夫
 八角三郎
 八木籬
 安岡正篤
 柳原義光
 柳澤保惠
 松井茂
 松村純一
 松村菊男
 増島六郎
 男藤村義朗
 男澤尾隆太郎
 深水貞吉
 二子石官太郎
 近衛文麿
 近藤次繁
 小松謙次郎
 永龍久吉
 江口麟六
 寺岡平吉
 有馬良橘
 赤池濃

赤羽克己
 秋月左都夫
 綾川武治
 安藝晋
 西卿從徳
 坂本俊馬
 坂本一
 坂本鈔之助
 佐藤鉄太郎
 佐藤畢藏
 佐藤清勝
 本村清四郎
 紀平正美
 肝付兼英
 宮川邦基
 老永星郎
 田富孝輔
 四五天延老
 白井二郎
 柴五郎
 遠藤松
 樋口誠康
 土方寧
 百武三郎
 男藤村義朗
 男澤尾隆太郎
 深水貞吉
 二子石官太郎
 近衛文麿
 近藤次繁
 小松謙次郎
 永龍久吉
 江口麟六
 寺岡平吉
 有馬良橘
 赤池濃
 森山慶三郎
 兩角三郎
 星野桂吾
 以上

高松第三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

辛未同志會、動靜ニ関スル件

昭和六年十一月十八日

歐米局

芝区水交社内辛未同志會總會開催ノ件ニ関シ
報ノ處ナルガ合會ハ各年倫敦海軍ニ縮
條約問題當時輿論喚起ノ爲奔走セシ海
軍ニ縮約問題聯盟（恢弘會外五團體）ヲ中心ト
シ去月二十八日秘密裡ニ水交社ニ會合、種々
協議ノ結果國防其他ニ関シ善処スル目的ニ
テ陸軍、海軍、政治外交ノ四部門ニ分チ夫
々専門家ヲ是ニ配シ各々研究ノ上適當ナ

ル運動ヲ開始スルコトニ決定、本會ヲ組織
セラレタルモノナルガ會員ハ退役陸海軍將
官及一部貴族院議員等、多數ニ亘リ目下
別記名簿ノ通り百二十名ヲ算シ役員ハ
未タ決定セサル趣ナルニ臨時ニ有馬大
將、筑紫中將、本多熊太郎等首トシテ
是ニ當リツ、アル模様ニ有之其ノ經過引
續キ注意中

以上

辛未同志會名簿

男	公
井上清純	一條実孝
井上雅二	子 花房太郎
井上一次	花井卓藏
伴江朝助	阪西利八郎
伴丹松雄	半澤玉城
石橋甫	西紳六郎
石老真臣	西宗龜三
岩崎清七	堀川新
飯田久恒	幸多能太郎
梅津圭三郎	堀口九萬一
	堀内三郎
	堀内龍明
大寺純藏	上山満之進
大川周明	神崎一作
大倉邦彦	堀田秀雄
大谷幸四郎	吉田清風
奥平俊藏	吉村萬治
和田彦次郎	田中都吉
和田順助	主花種忠
加茂正雄	竹内重利
寛正太郎	多賀宗之
亀岡豊二	谷田繁太郎
鹿子木員信	男 高倉永則
河西惟一	高田豊樹
	北條大洋
	徳富猪一郎
	堀内曹次郎
	富谷鑑太郎
	千坂智次郎
	小栗孝三郎
	小笠原長生
	大隈信常
	大井成元
	大島健一
	大山卯次郎
	柵町五十吉
	羽島ハ十六
	能繁能七
	辻村楠造
	鶴見左吉雄
	長岡隆一郎
	中島資明
	中川正左
	中里重次
	鍋島直明
	南郷次郎
	半田亀太郎

村川 怪 園
向田 金 一
内田 嘉 吉
内田 定 樞
内田 重 成
内田 虎 三 郎
宇野 哲 人
宇佐 山 知 義
野中 勝 明
山田 英 太 郎
山田 耕 三
山口 十 八
子

山踏一善
山下三郎
矢野恒太
八角三郎
八木 籬
安岡正篤
柳 羣義孝
柳 潔保惠
松井 茂
松村 純一
松村 菊勇
増島 六郎

男藤村義朗
男深尾隆太郎
男深水貞吉
二子石官太郎
公近衛文麿
近藤次繁
小松謙次郎
永瀧久吉
江口麟六
寺岡平吾
有馬良橘
希池濃

森田 亮 巳
 秋月左都夫
 綾川武治
 安藝 晋
 西卿從德
 又 幸 俊 馬
 坂 幸 一
 坂 本 鈔 之 助
 佐藤 鉄 左 郎
 佐藤 畢 藏
 佐藤 清 勝
 本村 清 四 郎

野平正義
 野付義英
 宮川邦基
 老永墨郎
 四富孝輔
 四五天延老
 白井二郎
 比方五郎
 遠藤松
 樋口誠康
 土方寧
 百武三郎

森山慶三郎
兩角三郎
星野桂五郎

寫

歐米局

條約局
高秘第三四八五號

昭和六年十二月十九日接
昭和六年十一月十八日

辛未同志會、勸辭ニ関スル件 爲 祝 監

芝区水交社内辛未同志會總會開催ノ件ニ関シ
テハ本月十七日付高秘第三四八五號ヲ以テ既
報ノ處ナルガ今會ハ各年倫敦海軍之縮
條約問題當時輿論喚起、爲奔走セシ海
軍之縮約問題聯想一恢弘會外五團體ヲ中心ト
シ去月二十八日秘密裡ニ水交社ニ會合、種々
協議、結果國防其他ニ関シ善処スル目的ニ
テ陸軍、海軍、政治外交ノ四部門ニ分チ夫
々専門家ヲ是ニ配シ各々研究、上適當ナ

ル運動ヲ開始スルコトニ決定、本會ヲ組織
セラレタルモノナルガ會員ハ退役陸海軍將
官及一部貴族院議員等、多數ニ亘リ目下
別記名簿ノ通り百二十二名ヲ算シ役員ハ
未タ決定セサル趣ナルモ臨時ニ有馬大
將、筑紫中將、本多熊太郎等首トシテ
是ニ當リツハアル模標ニ有之其ノ經過引
續キ注意中

以 上

辛未同志會名簿

公

一條実孝

子

花房太郎

北條大洋

男

井上清純

范井卓藏

徳富猪一郎

井上雅二

阪西利八郎

板内曾次郎

井上一次

半澤玉城

富谷鑑太郎

伴江朝助

西伸六郎

千坂智次郎

伴丹松雄

西原亀三

小栗孝三郎

石橋南

蟻川新

小笠原長生

石老真臣

幸多熊太郎

大隈信常

岩崎清七

堀口九萬一

男大井成元

飯田久恒

堀内三郎

大島健一

梅本圭三郎

堀内龍明

大山卯次郎

男

大寺純藏

上山満之進

棚所五十吉

大川周明

神崎一作

利島八十次

大倉邦彦

横田秀雄

龍紫能七

大谷幸四郎

吉田清風

辻村楠造

奥平俊藏

吉村萬治

鶴見左吉雄

和田彦次郎

田中都吉

長岡隆一郎

和田順助

主花種忠

中島資明

加茂正雄

竹内重利

中川正左

寛正太郎

多賀宗之

中里重次

亀岡豊二

谷田繁夫郎

男 鍋島直明

鹿子木貞信

高倉永則

南郷次郎

河西惟一

高田豊樹

井田亀太郎

村川堅固	山踏一善	男 藤村義朗
向田全一	山下三郎	男 深尾隆太郎
内田嘉吉	矢野恒夫	深水貞吉
内田定雄	八角三郎	二子石官太郎
内田重成	八木 籬	公 近衛文麿
内田虎三郎	安岡正篤	近藤次繁
宇野哲人	柳 稔義光	小松謙次郎
宇佐川知義	柳 淳保真	永瀧久吉
野中勝明	松井 茂	江口 麟六
山田英太郎	松村純一	寺岡平吾
山田耕三	松村菊勇	有馬良橘
山口十八	増島六一郎	市 比 濃

赤羽克巳	紀平正美	森山慶三郎
秋月左都夫	野村兼英	雨角三郎
綾川武治	宮川邦基	星野桂吾
安藝 晋	老永星郎	以上
西郷從徳	四富孝輔	
坂本俊馬	四五天延老	
坂本 一	白井二郎	
坂本鈔之助	柴 五郎	
佐藤鉄太郎	遠藤 松	
佐藤 畢藏	樋口誠康	
佐藤清勝	土方 寧	
本村清四郎	百武三郎	

條約局

高發第五五二號



昭和六年十一月十八日

高知縣知事

坪井勸士



三
6.11.25
文書

昭和六年十二月廿四日接受

警印

内閣總理大臣若槻禮次郎 殿
 内務大臣安達謙藏 殿
 外務大臣幣原喜重郎 殿
 陸軍大臣南次郎 殿
 海軍大臣安保清種 殿
 各廳府縣長官 殿

軍備縮少運動ニ関スル件

本年九月頃よりスト教婦人矯風會平和部長

名義ヲ以テ矯風會高知支部ニ宛明春二月ジエネ
 ーヴニ開催サルベキ一般軍縮會議ニ関シ内閣總理
 大臣及全會議ニ対シ世界軍縮請願ヲナスヘリ別
 記請願用紙ニシテ理由書ヲ添付署名方依頼越
 シタルカ接受者ニ於テハ送付ニ係ル用紙二百部中
 目下約半数ヲ調印ヲ得居ル狀況ニテ本年未迄
 ニハ全部ヲ取纏メトスル意向ニ有之
 右及申一通一報候也

我等は世界に於ける海陸空の軍備の徹底的縮小を
熱望し一九三二年二月ジュネーブ一般軍縮
會議に於て我が日本帝國が世界各国ト協力
して目的の達成を期せん事を請願す

昭和六年十一月

請願者 任新氏

印

內閣總理大臣若槻禮次郎

一被軍縮會議御中

理由書

國際聯盟は明しき二月ジュネーブに一般軍縮會議を開き海
 軍、陸軍、空軍に亘る軍備全般の縮少、制限について協議
 をすることになりましむ。此ルには國際聯盟加盟の五十四ヶ国
 外に米、露、墨、中、豫想され空前の大軍縮會議たらんと
 して居ります。

科学の進歩は戦術を一変し、また毒瓦斯等の最新科学の
応用により、今後戦争に於ては戦地にある戦闘員は勿論、老
人婦人の供、非戦闘員までが死傷の惨禍を蒙るは申すまい
もなく、数千年來の人類の文化も一朝にして破壊するの外はありせん
強大な軍備の存在は戦争の一大原因であり、過大の軍備は
他國に脅威を與へ、國際間の疑惑と不信の結果は猛烈な軍備
競争となり、然に戦争を惹き起すに至ることは過去史によつて

明であります。故に此の際戦争の誘因となるべき軍備を徹底的に縮小して戦争防止の途を圖すべきであります。國民の経済的負担を軽減するためにも此際軍縮は断行さるべきであります。昭和六年没子算に於いて我陸海軍費は四億四千万に達し、此の八割弱に当ります。此を最も限設点縮小し國民生活に密接な關係ある教育、社会的施設、生産的企業等に充てようことは一經國民の切實な要望であります。同時に昨今の深刻な経済不況が彼れ世界大戦及び其の後軍備競争に起因することを考へても徹底的な軍縮により全世界を經濟的、重荷より解放すべきであります。

最後に世界大戦後結ばれた國際条約上の義務として、各國は進んで軍縮を實行すべきであります。ヴェルサイユ平和條約締結の際各國は世界平和維持の爲には最低限度までの軍縮を必要を認め又獨逸に對しては各國の軍備制限を条件として徹底的な軍縮を迫りました。既に獨逸が之を實行した。今日各國共に自ら軍縮に努力すべきは當然の義務であります。尚又國際紛争を平和的手段によつて解決することを約した不戰条約を價值あるものたるに、此の際戦争の手段たる軍備は縮小すべきであらうと信じます。

来るべき軍縮會議に各國を代表して直接協議の仕に當らば、これは政治家及び軍事專家の家にあります。此の會議の目的を達成せしめる機背後の力となるものは、一に眞明な輿論であります。二に私共は全世界に在る平和を要する婦人と協力提携して軍縮興新喚起のために立ちまゐる。どうかあなたも（貴団体も）此際別紙に所載下さるべき要請の声を代表して下さい。

婦人平和協會
國際聯盟協會婦人部
日本基督教婦人矯風會平和部

條約局

皇軍第四七二號

昭和六年

十一月十九日

兵庫縣知事

小柳牧

六連

昭和六年十二月廿四日接受

名込綴

三
6.11.25
文書

内閣總理大臣 若槻禮次郎

内務大臣 安達謙吉

陸軍大臣 南 次郎

海軍大臣 安部 實良

外務大臣 幣原 喜重郎

各 府 縣 長 官

世界軍總會議ニ對スル請願運動ノ件

全世界ニ於ケル陸海空三軍 備員總數之懸望ニ其目的

ノ達成ヲ期セント 東軍ニ居リ

東京市外火久保百八ノ三六。

日英基督教婦人矯同会本部

外二團件

ニアリテハ西歷一九三二年 二月二日

サルハ中世軍 總會議ニ對スル徵意の事 備員總數ノ

期ニ當リ内閣總理大臣以下 第一般軍 總會議死

提議者 諸國軍 總會議者 署名ヲ求ムハ管下 建

名郡 海軍部 矯同会 陸路支那 長

矯同会

宛別紙ノ如ク請願書 郵送ニ付ルカハ支那

リテハ目下 支那 軍 總會議 調印 東軍中 二月之

后及軍 (通) 報信

（Faint handwritten text, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some characters like "支那" and "軍" are visible.)

世界軍欲請願書

我等は全世界に於ける海陸空の軍備の徹底
的縮小を懸望し一九三二年二月ジュネーヴ
海軍條約に於て我日本帝國が世界各國と協
力して目的の達成を期せん事を請願す。

昭和六年 四月 日

伍所

氏名又團體名

團集時代著名

會員數

内閣總理大臣若槻禮次郎

世界軍總請願書

我軍は全世界に於ける海陸空の軍備の徹底の縮
小を懸望し一九三二年一月にエネーヴ一般軍縮會議
に於て我日本帝國が世界各國と協力して目的の達成
を期せん事を請願す。

昭
和
大
正
日

怪部

氏名又團體名

團體時代表者名
員數

會員數

一、般軍總會議決中

意

一男女老幼は十八才以上の我國民は必ず一文字の教習習名を下す
二我々は及ぶエネ——少軍總を議に提出した——ますの商才の請存書に
御書を下す
三昭和六年 五月三十日までに在籍の團體の何れか必ず御送還す

まくにたてとる事像團體の何れか必ずしも協運送下中
 東京市市安坂に新場所五二
 東京市市都府元南三〇一
 東京市斗上之便百(科)三六〇
 婦人平和協会
 國際救護協會婦人部
 同平妻智級
 婦人賛同会平和部

條約局

特高秘收第五三二五五號

昭和六年十一月二十日

長野縣知事

石垣倉治

内務大臣安達謙藏殿
外務大臣幣原喜重郎殿
各廳府縣長官殿

古畠軍縮請願書署名運動ニ關スル件

日本基督教婦人矯風會平和部、國際聯盟協會婦人部、婦人平和協會連名ニテ、明年二月「ジュネーヴ」於テ開催豫定ノ古畠軍縮會議ニ對スル請願書及理由書ヲ印刷シ全國的ニ署名ヲ求ムヘク各支部ニ郵送ノ趣客

月廿八日附外秘第二八七九號警視(貴)廳ヨリ通報有之候慶管下長野、松本、上田市所在基督教婦人矯風會支部長宛客月初旬郵送遞シタルカ長野、上田、西支部ハ各百名位ノ署名ヲ得ヘク目下勸誘中ナルカ松本支部ハ聯隊所在地ナルニ加ヘ日支關係激化ノ折柄此種運動ニ參加ヲ希望スルハ状況ニ有之
右及申(通)報候也

昭和六年十二月廿六日接達

三條 6.11.06 文書

條約局
第七六七號

昭和六年十月十四日

名込綴

昭和六年十月廿五日接受

福井縣知事齋藤直橘



内閣總理大臣若槻禮次郎殿
内務大臣安達謙藏殿
外務大臣幣原喜重郎殿
陸軍大臣南次郎殿
海軍大臣安保清種殿
各廳府縣長官殿

軍備縮小請願運動一件

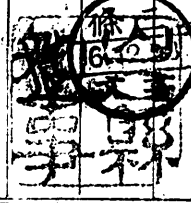
本月十日頃日本基督教婦人矯風會
平和部長名義ヨリ管下矯風會福
井支部宛明春二月ジユネーヴ開催
サルベキ一般軍縮會議ヲ機トシ内閣
總理(貴)大臣及同會議ニ對シ世界軍
縮請願ヲ為スベク請願書用紙(本
月十八日附高第第五五二號高知縣通
報ト同様)ヲ郵送署名調印方依頼
越セル依リ接受者ニ在リテハ其趣旨
ニ賛同近キ會員ノ調印取纏メ婦人矯
風會本部宛送附セハトスル意嚮ニ有之
右及申(通)報候也

條約局長

萬葉一五五九六號軍縮係

昭和六年十一月十九日

山口縣知事 岡田周



昭和六年十二月廿二日接受

作
成
日
付

内務大臣中橋徳五郎殿
外務大臣大 養 毅殿
岡山縣知事 殿

軍縮全権ニ對シ血書託呈ニ関スル件

本月十八日朝管下町岡駅着山陽本線下
り列車乗務車掌某氏名不詳ニ合列車
が岡山駅停車中氏名不詳ノ者ヨリ一通
封書ヨリ「軍縮會議出席ノ松井全権

山口縣

一行ニ渡レテ美レヨト依頼ヲ受ケタルヲ
合車掌ハ之ヲ受取り合列車カ下岡駅着
ト其ニ該封書ヲ下岡憲兵分隊ニ前記事
備テ述ベ取次方依頼レタルヲ森下岡憲
兵分隊長ハ全権一行門司入港ノ際提出
被見セルニ平紙ニ枚ニ各々血書ニテ「帝國及
乃屬中健闘」セリ。岡山縣吉備五十五會
ト該ノ状袋ニ表ニ「軍縮全権大使殿トシ
テ」ハ岡山縣吉備商業學校五十鈴會ト
記レアリタルハ差出人ノ住所氏名等其ノ他
不詳ニ有之

右及中「通」報候也

岡山縣ニ於テハ中橋重ノ上何分ノ中回報相頑度候

大正 四 三

特高秘發第五五七號
昭和六年十月十八日

若手縣知事久保豊四郎

昭和六年十月廿八日接受

名込綴



内務大臣 安達謙藏 殿
陸軍大臣 南次郎 殿
外務大臣 幣原喜次郎 殿
警視總監 道 殿
東五縣各長官 殿

世界軍縮請書調印方依頼紙ニ関スル件

各月下自芝督教婦人矯風會本部ヨリ管下各因市所在全會
支別宛別紙第一号寫ノ如キ理由書第一号寫ノ如キ請書名
百部宛別紙第一号寫ノ如キ理由書第一号寫ノ如キ請書名
之 興進ニ鑑ミ調印方依頼紙ニ関スル件
ニ 興進ニ鑑ミ調印方依頼紙ニ関スル件

右及中(通)教服處

大正 門脇

特高秘發第五五七號

名込綴

昭和六年十二月廿八日接獲

保豊四郎

昭和六年十二月廿八日接獲

昭和七年一月二日

海軍省軍務局

西田

外務省第三
大蔵書記官 啓

極小簡單ナルモノヲ俄今説明用トシテ起案トスル
中若考進ニ送付ス
(却敷金印ナキ付一却ノシ)

世界軍縮請書調印方依頼書ニ関スル件

各月下白甚督教婦人矯風會本部ヨリ管下或國市所在全會
支那支那紙第一号寫ノ如キ理由書第二号寫ノ如キ請書
百部調印方依頼書ニシタルモノヲ滿蒙問題ニ對スル現
ノ實情ニ鑑ミ調印方依頼書セサル模様ナルニ推移注意中ニ有
之

右及中(通)教服處

世界軍納請願書

我等は世界に於ける海陸空の軍備の徹底削減を熱望し一九三二年二月にエネボ
一般軍縮会議に於て我日本帝國が世界各國と協力して目的の達成を期せん事を議決
す

昭和六年 月 日

住所

氏名

国名

(国名等は)

代表者名

会費数

内閣總理大臣若槻禮次郎 殿

世界軍納請願書

我等は世界に於ける海陸空の軍備の徹底削減を熱望し一九三二年二月にエネボ
一般軍縮会議に於て我日本帝國が世界各國と協力して目的の達成を期せん事を
議決す

昭和六年 月 日

住所

氏名

国名

(国名等は)

代表者名

会費数

一般軍縮會議中

注意

一 男女老幼は満十八人以上の我國民は出来るだけ多数簽名を下さい。
二 我政府及びエネボ一般軍縮會議に於て我日本帝國が世界各國と協力して目的の達成を期せん事を
三 昭和六年十二月廿日までには記主姓名住所を何れかへ必ず御返下さい

東京市赤坂区新坂町五二
東京市麹町区丸の内三二
東京市外上区保善人町五二
婦人平和協會
國際婦人協會
日本婦人矯風會
若槻殿

次

官一

天祥第四八條

昭初七年三月三十日

條約局長

長野縣更級郡中津村

帝國在滿洲會更級郡聯合會長田島一郎

條約第一條

國際軍需會滿洲國全權秘書官

時局ニ関シ宣言及決議上申書

首題

件別紙

候也

歐米防長

歐米二氏

條約第三條

大鷹

三浦條

大鷹

三浦三郎



宣 言

建國悠久三千年皇威四海ヲ輝シ莊嚴雄大万国比無シ
上聖明ヲ仰キ下蒼生ハ其惠澤ニ浴シテ平和ヲ欣ム感激
ノ至ニ堪ヘサルナリ
我が帝國ハ昨歲九月以來彼ノ暴戾無道ナル支那軍隊及
匪賊ヲ膺懲スルコト既ニ半歲ヲ超ユ卽チ我カ皇軍ノ嚮
フ處捷報連リニ到リ彼ノ滿洲國ハ我カ光輝燦然タル
皇威ニ倚リテ其建設ヲ見ル亦上海方面ハ我カ陸海軍協
同ノ下ニ十數万ノ強敵ヲ殲滅シテ凱歌既ニ支那ノ全土
ヲ震駭ス今ヤ民國ハ困憊其極ニ達シ遂ニ降ヲ我カ軍門
ニ請フ然レ共外國際ノ情勢ハ益警戒ヲ要シ時局愈重大

ナリ而シテ將亦軍縮會議アリ須ラク機ニ處シ我カ主張
貫徹ノタメ我カ國是確立ノ爲ニ眞ニ舉國一致勇往邁進
ヲ要スルコト切ナルモノアルヲ以テ吾人在郷軍人ハ茲
ニ宣誓シ決議スルコト左ノ如シ

決 議

一、吾人ハ彼ノ國際聯盟カ公明正大ノ機能無キニ鑑ミ我
カ國民ヲシテ對應ノ決意ヲ堅確ナラシメ是ヲ統制シ
テ以テ我カ國威ヲ顯揚シ我カ國策ノ貫徹ヲ期ス
二、吾人ハ列國ノ情況ト隣邦ノ情勢ニ鑑ミ我カ國防ノ充
實ヲ期ス

三、吾人ハ上海事件ノ根本ニシテ積年ノ懸案タル彼ノ排
日侮日ノ絶滅ヲ期ス

四、吾人ハ軍縮本會議ニ對スル國論ヲ統一シ堅忍持久以テ我カ帝國ノ主張ヲ貫徹センコトヲ期ス

五、吾人在郷軍人ハ此國難ニ處スルニ益軍人精神ヲ修養シテ其心身ヲ鍛練シ同心戮力謹テ忠誠ヲ我カ尊キ神明誓フ

昭和七年三月二十一日

帝國在郷軍人會更級郡聯合分會長

陸軍工兵中尉 田島準一郎

外 會員 四千貳百六拾九名

右決議ヲ左記ノ要路者ニ建白ス

參謀總長 宮殿下
軍令部長 宮殿下

總理大臣 閣下
陸軍大臣 閣下
海軍大臣 閣下
外務大臣 閣下
內務大臣 閣下
關東軍司令官 閣下
支那駐屯軍司令官 閣下
上海派遣軍司令官 閣下
國際軍縮會議帝國全權 閣下
第三艦隊司令長官 閣下
第十四師團長 閣下
留守第十四師團長 閣下

條約局

高親第四〇五〇

昭和七年八月三日

名込綴

昭和七年八月八日

條三 7.8.9 文書

忍

13/8

陸軍局長

情報部

情報二課長

陸軍大臣

海軍大臣

大藏大臣

文部大臣

米國提出軍事縮減及對運動三関不...

閣下平和俱樂部於此昨三海軍縮減之時...

協會京阪神聯合會最高幹部協議會ヲ開催...

海軍省

海軍技術會本部部長

海軍中將

海軍技術會本部部長

海軍少將

海軍技術會本部部長

海軍少將

海軍技術會本部部長

海軍少將

海軍技術會本部部長

海軍少將

海軍技術會本部部長

海軍少將

六名ニシテ米國政府ノ提出セル三公一軍縮案排
撃ヲ議題トシテ種々協議ノ結果聯合會
名ヲ以テ別紙聲明書ヲ作成シ海軍協會長市
藤首相、岡田海相海軍現役大將、海軍協會各
支部（大阪、東京、都神戶、名古屋、廣島、吳、横須賀、横
浜、小樽、福岡、金沢、青島、大連）宛郵送シ全國
的運動ヲ開始シ目的貫徹ニ努ムルコト、十
リ一箇禮拜內在軍縮全權永野中將ニ付シ
テハ激励電報ヲ發スルコトニ決定シ（電文ハ西成
ニ於テ起草中）余信之ハ數日ハ目下不明）一同本
運動達成ヲ誓ヒテ午後五時散會ヤリ

右御參考庫及申報帳也

41

下
學
期

卷四

10

十二月

國風

1.

100

1

10

10

別紙

聲明書

米國政府提出ノ海軍縮案ハ帝國ノ將來ニ不利甚タシキモノアリ断シテ之ヲ容認スヘカラス

一特殊國情スハソノ環境ヲ無視シテ要一律ヲ以テ軍縮ヲ行ハントスルコトハ其ノ根本ヲ愆ルモノナリ

ニ艦艇ノ實質ニ関シテハ彼我均等ノ自由アルヘシテ論議彼獨リ得兼新鋭艦ヲ保有シ得ル

ニ及シテ我之ヲ保有シ居ラサルカ如キハ國際間ニ軍縮ノ公正ヲ期シ得ル所以ニ非ス

ニ現有兵力ノ廢棄新艦建造停止等現存艦艇ノ廢棄ノ利害ヲ伴フ問題ニ関シテハ機會均等主義ヲ保有スルヲ要ス

ニ海軍縮能力ノ維持ハ陸上緊要事タルモノナリシラス國民生活問題上亦過當ニ之ヲ裁減スルヲ容ルヤス

陸軍局長

特秘第九二二二號

昭和七年八月五日

大阪府知事 縣

忍

昭和七年八月拾壹日 接受



陸軍省

内務大臣 山本 達雄 殿

外務大臣 田 康 哉 殿

海軍大臣 岡 田 啓 介 殿

各廳府縣長官 殿

關東廳 警務局長 殿

大阪地方裁判所 檢事正 殿

軍縮係 大鷹 啓

海軍協會 京阪神聯合會 令

海軍協會 京阪神聯合會 令 在 京 阪 神 關 東 各 國 艦 隊 現 有

海軍協會 京阪神聯合會 令 在 京 阪 神 關 東 各 國 艦 隊 現 有

海軍協會 京阪神聯合會 令 在 京 阪 神 關 東 各 國 艦 隊 現 有

海軍協會 京阪神聯合會 令 在 京 阪 神 關 東 各 國 艦 隊 現 有

全協會 大阪副支部長

予備海軍中將

全協會 神戶副支部長

予備海軍少將

全協會 京都副支部長

予備陸軍少將

全協會 大阪支部長

予備海軍少佐

全協會 大阪支部長

予備陸軍中尉

全協會 大阪支部長

予備海軍少佐

全協會 大阪支部長

予備陸軍中尉

記

米國政府提出ノ海軍々縮案ハ帝國ノ將來ニ不利甚シ
キモノアリ断シテ之ヲ容認スヘカラス
一特殊ノ國情又ハソノ環境ヲ無視シ千篇一律ヲ以テ軍
縮ヲ行ハントスルコトハ其根本ヲ愆ルモノナリ
二艦艇ノ實質ニ関シテハ彼我均等ノ自由アルヘキハ勿
論彼独リ將來特種艦ヲ保有シ得ルニ及シテ我之ヲ保
有シ得サルカ如キハ國際間ニ軍縮ノ公正ヲ期シ得ル
所以ニ非ス

三現有兵力量ノ廢棄ハ艦建造々艦休止現案ノ利害ヲ
以テ問題ニ關シテハ機會均等主義ヲ保有スルヲ要ス

四海軍能力ノ維持ハ實ニ國防上緊要事ナルシメテ我々海軍
國民生活問題上亦適當ニ之ヲ裁減ヲ容ルサズ

條約局

秘發第四。五號

昭和七年八月十二日

愛知縣知事遠藤柳作

名	込	綴

昭和七年八月拾一日



内閣總理大臣齋藤實殿
内務大臣山本達雄殿
海軍大臣岡田啓介殿
陸軍大臣荒木貞夫殿
外務大臣内田康哉殿
大藏大臣高橋是清殿
大阪京都兵庫廣島神奈川
北海道福岡石川關東廳各府縣長官殿

米國提出ノ軍縮案ニ對シ海軍協會名古屋支部ノ意見書ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ海軍協會名古屋支部常任幹事(退役海軍大佐)幸田銚太郎ハ其ノ如ク意見書ヲ提出シ居レルニ付御参考石及申(一通)報候也

記

海軍協會ハ政府ト提携シ本軍縮案ヲ飽逆拒絶スベキモノニシテ本案ハ英府並倫敦條約ノ兵力量ノ基礎ノ上ニ其ノ三分一ヲ縮少セムトスルモノナルガ帝國ハ倫敦條約ノ際一九三六年迄ノ暫定的條約ナルガ故ニ不満足ナガラ調印シタルモノニテ一九三五年ノ條約改定期ニハ

帝國ハ改メテ兵力量ヲ主張スルノ權利ヲ
留保スル旨ノ聲明ヲ爲シアルニ斯ル不合理
ナル米國案ヲ容認スル事ハ絶對出来得ナ
イハ勿論帝國ノ國防上飽クマデ反對ナリト
稱シ居レルが目下具體的運動ノ計畫ナ
シ

以
上